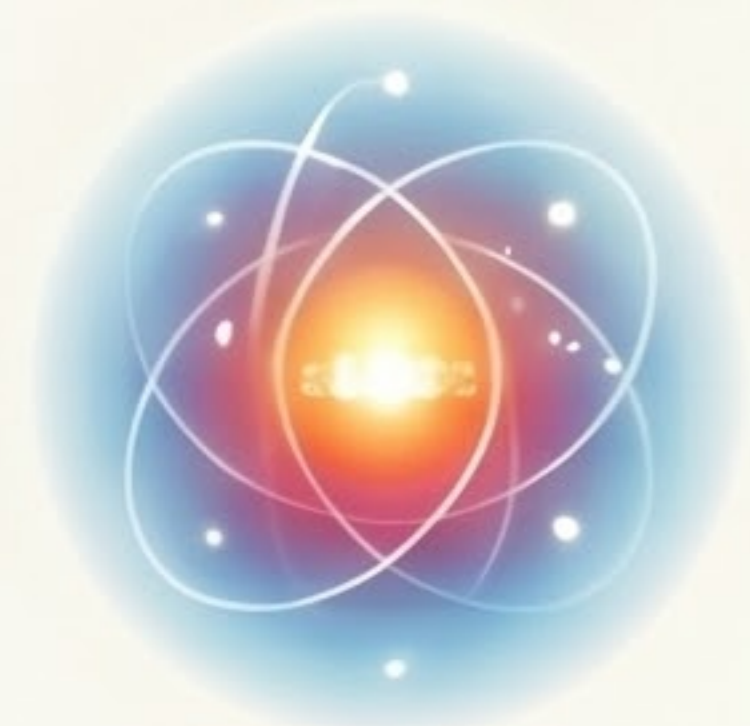


味の素グループ：知的資本戦略の3年間の進化（2023-2025）

2023年：無形資産の再定義と構想

Pre-financial assets

将来の財務成長



無形資産

将来の財務成長

Pre-financial assets

非財務ではなく、将来の財務成長に直結する資産として定義。



4つの資産の接続を開始

人財・技術・顧客・組織のフレームワークを提示。アミノサイエンスをパーパスに加え、価値創造の源泉として牽引。

2024年：体系化と価値創造の基盤構築

4資産を「強みの源泉」として明確化。人財が技術と顧客をつなぎ、組織がイノベーションを支える。



データ基盤「ADAMS」の構築

データ観点での意思決定と「見える化」の推進。組織風土と業績の相関を可視化し、データ統合で意思決定スピードアップ。



報酬指標への接続

無形資産の価値を社員報酬に連動。従業員エンゲージメントやコーポレートブランド価値を、中期業績連動型奨励相連の指標として設定。

2025年：実装・成果化と高速開発



過去最多の特許取得
特許取得数

512件

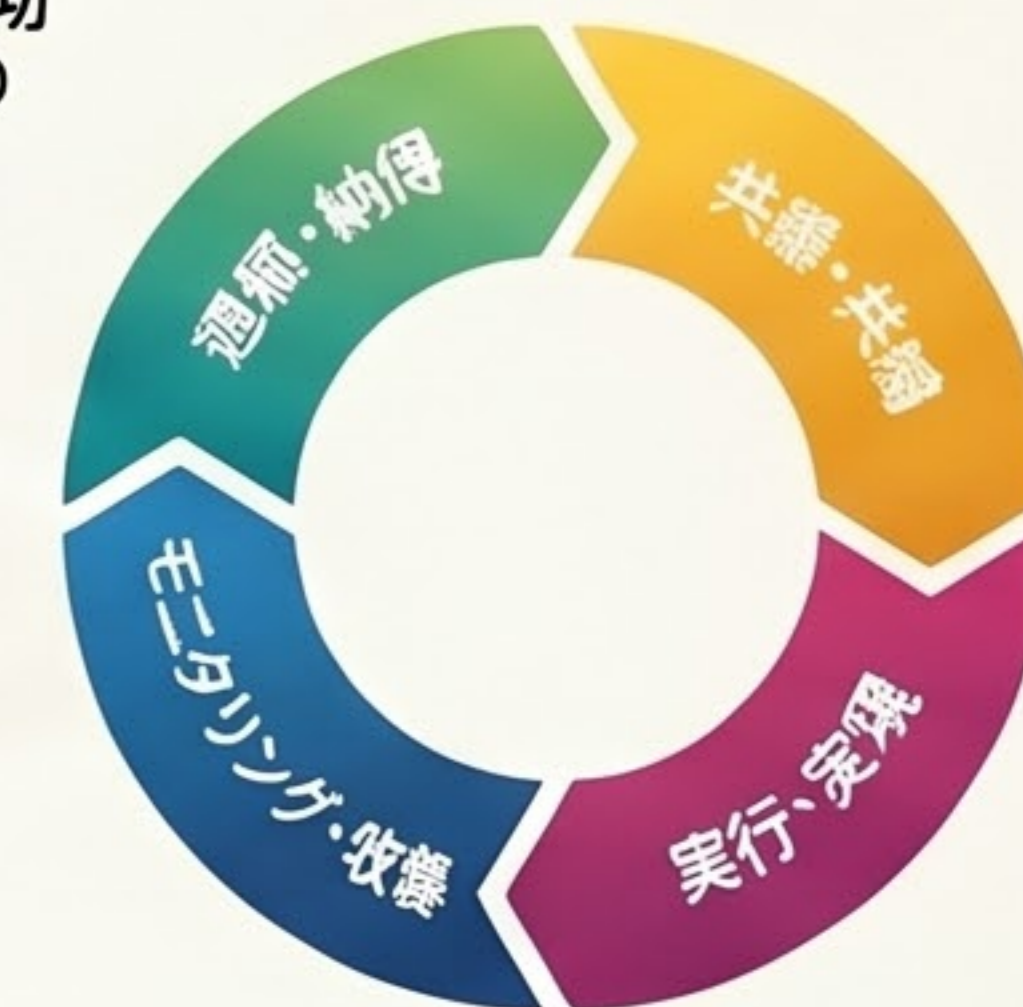
(2024年度末時点)

当社歴代1位の模倣審査本を記録し、知的財産を競争優位の核として活用。

知財・事業・R&Dの「三位一体」による高速開発システムによる価値最大化。ABF開発などの成功体験をベースに、知財を事業成長の設計直業へと進化。

ASVマネジメントサイクルの標準化

主（パーパス）を現場の実行プロセスへ落とし込む。組織文化を経営プロセスとして運用。



今後の課題と機会



資産間の接続の「定量的説明」

どの資産がどう数がり、どう価値を生むかの証明。4資産の相関が具体的な事業産業にどう結びついているかを証明することが最大の課題。



「科学起点の価値共創企業」への進化

食塩会社の枠を越えたビジネスモデルの構築。アミノサイエンス、潤財、データ、人間を高次元に結びつけ、持続可能なイノベーションを醸成する企業体へ。

基本コンセプト	Pre-financial assets	強みの源泉・価値創造の基盤	高速開発・実行システム
人財資産	人的資源の進捗評価	技術と顧客をつなぐ中心資産	挑戦・実行力を重視した育成
技術・知財	アミノサイエンスのPurpose化	IPランドスケープ・戦略チーム	三位一体の戦略ポートフォリオ
データ・組織	DX・顧客データの活用開始	ADAMS構築・対話北化の明記	データ資産の共有・継承



DXとブランドの進捗評価

生活者接点の強化を「成長資産」として扱う。AJINOMOTO PARKを通じた顧客データ分析やデジタル変革 (DX) を評価対象へ。